

まえがき

「福祉」との出遇いは、1989年でした。ADL（日常生活動作）の改善に、今では当たり前の物理療法や運動療法を老人福祉施設に持ち込み、2年間、教え学ばせてもらったのが契機です。

有為転変は世の習い。社会福祉の従事者として自らの資質向上に努め、2019年に志望し「学び直し」の2年間で修士課程を修了。さらに、修士論文を整理し加筆修正した課題が、査読付きの論文として環境福祉学会の研究誌に掲載され、おそまきの初学者としての一步を踏み出すことになりました。

「学び直し」を決意する動機となったのは、研究主題である「障がい者・高齢者および若者達のケア並びに働く場の創出に関する実践的研究」を重ねる中で、研究対象の社会的弱者である障害のある人に注目したことからです。

彼らの対面するコミュニケーションでは、その表出から能力を不当に評価されることもあり、感情・態度・好み・性格について誤解を招く場合もありました。彼らは生きづらさを抱え、何を感じて、どのように捉えているのか、その主観に興味を持ちました。彼らが生きていく目標に「働く」ことを示して「傍^{はた}を楽にする」、つまり、かたわらにいる人や世の中の人を楽にしてあげる。そうすれば、きっと楽（幸せ）になるという思想が、「生きる力」を生み出すのだと考えました。

「働く」ことで、つながり、結びつくこととは何かを知りたい。それが、ワークエンゲイジメントを指標にした要因でした。

本書は、修士課程で執筆した論文を基に、働く障害者が置かれた立場（法令上・権利と配慮・雇用と就労の差異など）を示し、障害者の職種や職場環境に人間関係など、何が彼らの主観にワークエンゲイジメントするか、個性や特徴を特長化する行動の秘策は何かをまとめたものです。

あられずりの内容をご容赦を願ひ、すでに社会的企業を起業した方、これから起業しようとする方、一般企業でワークエンゲイジメントを取り組もうとする方にも知っていただき、「ひらめき」の一助になれば幸いです。

柏本行則

障がい者のワークエンゲイジメント
— ソーシャルファームにおける就労支援の方向性 —

目 次

まえがき	i
------	---

序 章 研究の背景と目的	1
--------------	---

1. 研究背景 1
2. 研究目的 2

第 1 章 障害者雇用と障害者福祉	3
-------------------	---

1. 障害者雇用の現状と課題 3
 - (1) 障害者雇用の政策展開 3
 - (2) 障害者雇用が進まない要因 5
 - (3) 障害者の生活と就労・雇用政策の転換点 7
 - (4) 障害者施策の新たな段階 8
 - (5) CiNii を用いた文献収集の検討 10
 - (6) 措置制度と契約制度と申請主義 11
2. デイセセント・ワークと障害者就労支援 12
 - (1) 働きがいのある人間らしい仕事の保障 12
 - (2) ILO の障害者就労分野の課題 14
3. 社会的企業と社会的包摂の関係 16
 - (1) 社会的連帯経済とコミュニティ・ビジネス 16
 - (2) 地域福祉の推進と社会的企業 18
 - (3) ステークホルダーの必要性 19

第 2 章 先行研究の概要と課題	22
------------------	----

1. 幸せを科学するワークエンゲイジメント 22
 - (1) 障害者のワークエンゲイジメント研究 22
 - (2) ワークエンゲイジメントのアウトカム 25
 - (3) ワークエンゲイジメントが求められる理由 25
 - (4) ポジティブ心理学とワークエンゲイジメント 26
 - (5) ワークエンゲイジメント測定と理解の補完 28
 - (6) 障害者向け主観的幸福度測定に関する先行研究 31

(7) 障害者の「わかりやすさ」理解の補完に関する先行研究	32
2. 農から学ぶ伝統的コーチングアプローチ	33
第3章 ソーシャルファームにおける障害者支援	39
1. ソーシャルファームとA型事業所の取り組み	39
2. 東京都におけるソーシャルファームのあり方	43
(1) 就労に困難を抱える方が働くソーシャルファームについて	44
(2) 就労支援における基本理念などについて	45
3. ソーシャルファームにおける障害者支援事例	47
(1) 農マライゼーションによる「農福連携」	48
(2) 多機能型事業所でソーシャルファームをめざす	50
第4章 A型事業所における就労支援の実態調査	53
1. 調査の概要	53
(1) 対象とした3事業所の概要と特徴	53
(2) 目的	56
(3) 調査対象および対象の選定の方法	56
(4) 測定除外者の検討	57
(5) 対象者の選定作業	57
2. 利用者調査	58
(1) 目的	58
(2) 調査方法	58
(3) 実施時期	58
(4) 回収数・回収率	58
3. 管理者調査	59
(1) 目的	59
(2) 調査方法	59
(3) 実施時期	60
(4) 倫理的配慮	60
4. 利用者対象アンケート調査の結果	60

- (1) アンケート調査結果・単純集計 60
- (2) アンケート調査・クロス集計 72
- 5. 管理者対象ヒアリング調査の結果 80
 - (1) ヒアリング調査を行った3事業所のコメント 81

第5章 ソーシャルファームの可能性と課題84

- 1. ワークエンゲイジメントの要因と就労支援の方向性 84
 - (1) 利用者の(UWES)3因子(活力・熱意・没頭)の積算をグラフ化からの総合評価 84
 - (2) 勤続年数とUWES-17・3因子分類 89
 - (3) 職場作業とUWES-17・3因子分類 90
 - (4) 障害区分とUWES-17・3因子分類 92
 - (5) 知的障害区分の農業部門と非農業部門3因子ならびにその積算 93
 - (6) 精神障害区分農業部門と非農業部門3因子ならびにその積算 94
 - (7) 一般就労をめざしているかの3因子ならびにその積算 95
 - (8) ソーシャルファームへの就労をめざしているかの3因子ならびにその積算 96
 - (9) 段階的調査の総合分析と考察 98
- 2. ソーシャルファームの働き方による就労支援 100
 - (1) ソーシャルファームの働き方による就労支援の形態 100
 - (2) ソーシャルファームの具現化に向けて〈働き方・休み方〉 100
 - (3) ソーシャルファームの可能性と展望 104

終章 本研究の到達点—生産活動事例の展開と展望— 106

- 1. 本研究の知見 106
- 2. 生産活動の実践例 107
 - (1) 出向型と受入型法人の設立経緯と活動様態 107
 - (2) 米100%の麺製造法に関わる技術の留保と障がい者の役割 110
 - (3) グリーンパイアの生産、出荷の様式および6次産業化への魅力 113
 - (4) 陶器破碎培地における根付きパクチーの生産および販売形態の特徴 116

(5) ワークスタイルのイノベーションのために	118
3. 今後の課題	119
引用・参考文献	121
資料	127
あとがき	140